



わの川だより

あおもりの川を愛する会

わの川だより 第27号

発行日：令和5年3月31日

「令和4年8月豪雨 復旧に向けて」

青森県県土整備部河川砂防課長 羽田 英明

【はじめに】

“「堤防等で防ぎきれない大洪水は必ず発生する」という認識を持ち、逃げ遅れによる人的被害を防ぎ、今後とも減災対策に強力に取り組んでいきます。”

この言葉は、私が以前に河川砂防課に在籍していた平成29年6月の県議会において、三村知事が「県管理河川の大規模氾濫に対する減災対策」について答弁された際のものでした。

当時の私は、河川の減災対策に取り組みつつも、鬼怒川（栃木県・茨城県）や小本川（岩手県）のような大規模な氾濫、浸水被害は、県内ではしばらく起こらないだろうと少し高をくくっていたような気がします。

ところが本県でも、昨年8月の記録的な大雨により、鰯ヶ沢町の中村川では、堤防からの越水もあり、まさに「堤防等で防ぎきれない大洪水」が現実のものとなりました。

このときの浸水状況をSNSで目にしたときの衝撃は、今でも鮮明に思い出されます。被害に遭われた方々には、改めてお見舞いを申し上げます。

この令和4年8月豪雨は、東日本大震災に続き、私が河川砂防課にて経験した最大級の出来事でしたので、改めて振り返り、関連した事柄を記述したいと思います。

【中村川 出水・被害概要】

昨年8月9日の鰯ヶ沢雨量観測所（気象庁）での24時間降水量は、既往最大となる202.5ミリとなり、県砂防指針にある200年確率の199.3ミリを超えるものでした。

一昨年の下北・上北地域での豪雨といい、“堤防決壊”“本県初の”といった見出しが新聞に躍る度、本県においても気候変動による影響がじわじわと迫っているように感じています。

中村川では、近年幾度となく越水の危機を乗り越えてきましたが、中村観測所では既往最高水位を約0.5メートル超過し、低地での内水氾濫もあり、下流市街地を含む約200ヘクタールが浸水しました。この浸水域は、公表していた洪水ハザードマップとほぼ重なっていることから、適切な避難を促すためにも、その有効性・重要性を再認識しました。

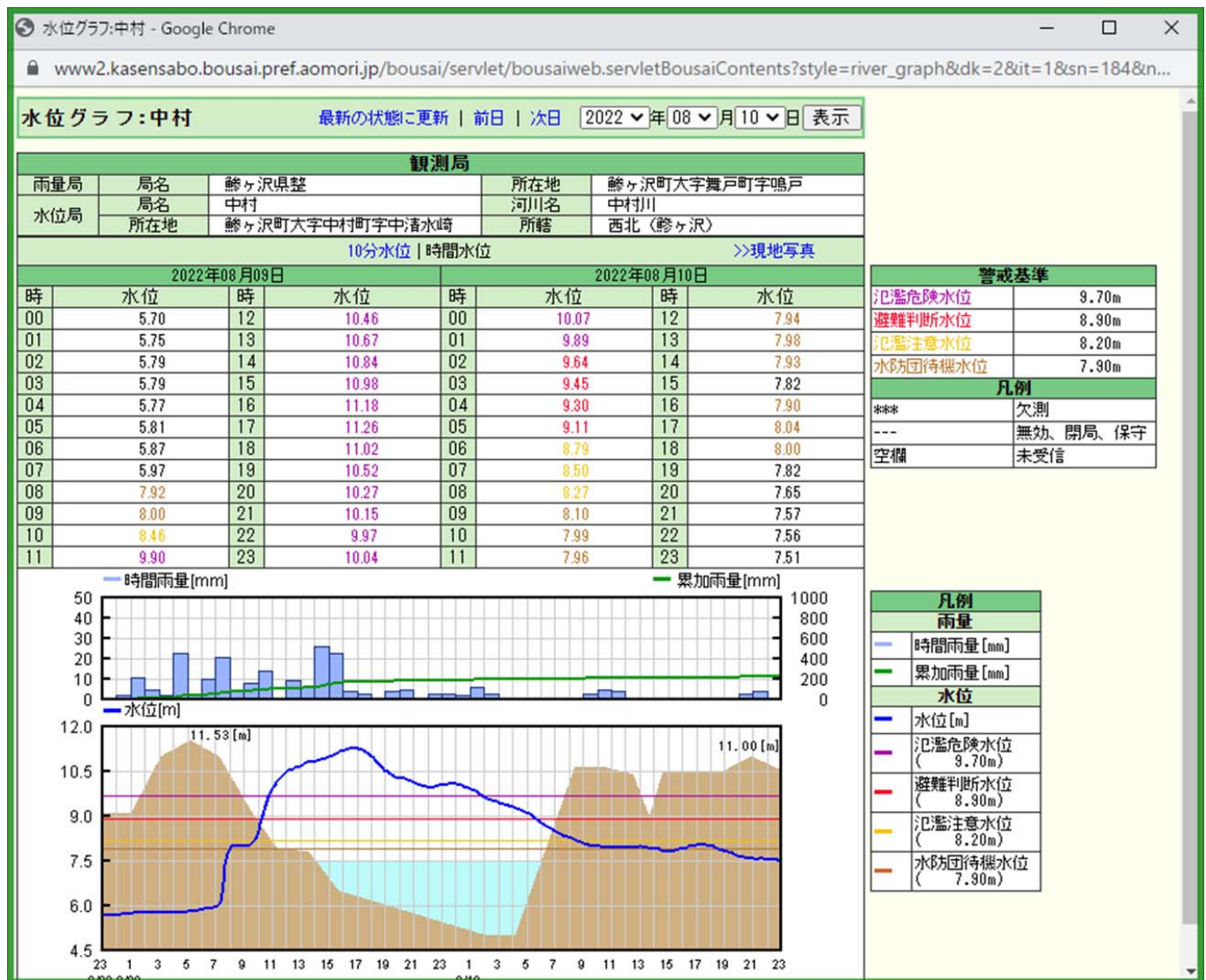
また、近年整備した護岸の流出等の被災に加え、氾濫した水が河川に戻るときに護岸が倒壊するという珍しい現象も発生しました。改めて水の力の大きさ・怖さを実感したところです。



中村川 鰯ヶ沢病院付近の越水状況
(R4.8.9 撮影)

目次：

「令和4年8月豪雨 復旧に向けて」	P1
令和4年度総会・講演会 熊原川源流の地 標柱建立報告書	P4
令和4年度「水辺で乾杯」 水辺関心創造アクション	P5
河川技術講演会 (青森河川文化講演会)	P6
駒込ダム 本体建設工事見学会	P7
イワナの産卵床づくり	P8
流域治水に繋がる 洪水対策(霞堤等)の伝承	P9
佐々木会長が河川功労者 表彰を受けました	
令和5年度あおもりの川を 愛する会総会のご案内	P10



中村水位局 観測データ (R4. 8. 9~10)

【中村川 激特事業 採択】

被災直後の昨年9月から毎月行った国土交通省等への地道な要望活動も功を奏し、「中村川河川激甚災害対策特別緊急事業」が同年12月に無事採択されました。本県での激特事業の採択は、昭和50年災における土淵川（事業費約34億円）以来となります。

平成19年から進めてきた河川改修事業（河口から1.4キロメートル区間）の加速化を図り、早期に完了させるため、令和8年度までの5年間、全体事業費50億円が認められました。

再度災害防止のため、県庁及び鯉ヶ沢道路河川事業所の担当職員が事業採択に向け一丸となり、現地調査や洪水の検証、資料整理等に取り組んでくれたことに、改めて感謝したいと思います。

【中村川 流域治水緊急対策推進会議 立ち上げ】

今回の浸水被害を受け、「中村川流域治水緊急対策推進会議」を昨年11月に設置しました。構成員には、国、県、町の関係者のほか、被害を受けた鉄道事業者も加わりました。

今後概ね10年間に緊急対策期間として位置付け、河川改修だけでなく、流域内のあらゆる関係者が協働して水害対策を行う「流域治水」を推進し、被害の軽減、早期復旧のための対策を進めることとしました。

去る3月20日に開催された第3回推進会議において、各機関が行う対策メニューとロードマップを取りまとめ、公表しました。この「流域治水」の取組の成果により、地域の安全・安心が早期に実現されるよう、切に願っているところです。



第2回 中村川流域治水緊急対策推進会議 (R5. 1. 19)

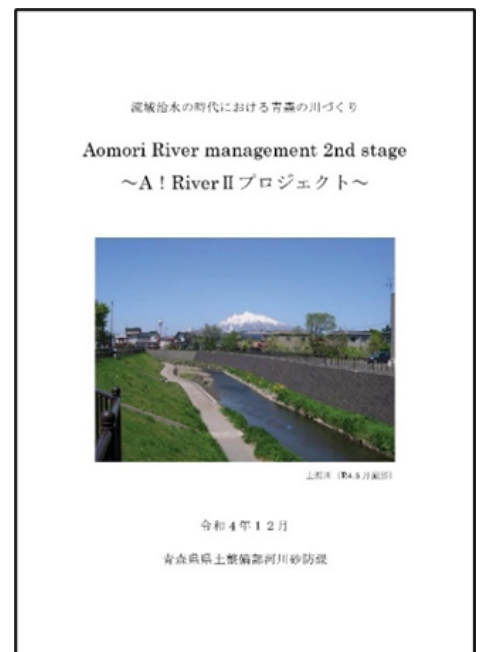
【A! River IIプロジェクト 始動】

昨年12月、川づくりに関わる技術力を底上げし、継続して向上させるための取組を「Aomori River management 2nd stage」（通称「A! River IIプロジェクト」）と称して、推進することとしました。具体的には、各種検討会、研修会を実施し、それらを反映したマニュアルを作成することなどによって、改めて多自然川づくりの考え方や楽しさを浸透させ、実践していくものです。

早速この2月に、五戸川での落差工を解消する「小さな自然再生」を皮切りに、活動を始めました。現地において、アドバイザーである弘前大学農学生命科学部の矢田谷助教を交えての講演、現場視察、工法検討会を行いました。

昨年被災した河川の災害復旧工事にも、このプロジェクトの成果を積極的に取り入れていきたいと思っています。

今後、川づくりの経験豊富な会員皆様からの技術指導等も賜りたく思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



A! River IIプロジェクト（表紙）

【おわりに】

昨年度は、令和元年度以来となる「河川技術講演会」の開催など、これまで行ってきた活動も少しずつ再開できるようになりました。様々な制約の下で行事の企画・運営を行っている事務局、会員の方々にはこの場を借りて御礼申し上げます。

元のようにマスクを外し、これまでと同様に様々な行事が開催できること、並びに会員皆様の益々の御活躍をお祈り申し上げ、私の巻頭のことばとさせていただきます。

●令和4年度 総会・河川文化講演会
あおもりの川を愛する会 事務局

令和4年5月21日（土）令和4年度総会をアラスカ会館に於いて開催しました。

当日は日本河川協会専務理事の黒川純一良氏がおいでになり、ご挨拶を頂きました。

総会終了後、青森県県民生活文化課総括主幹の中園裕様が講師となり、演題「青森県の歴史について」の内容で講演会を行いました。（参加者41名）



黒川専務理事挨拶



佐々木会長挨拶



●熊原川源流の地 標柱建立報告書
あおもりの川を愛する会 事務局

令和4年7月14日に標柱の建立を三戸郡田子町夏坂に流れる熊原川の源流の域に標柱を建立しました。

毎年1ヶ所、源流の域に標柱を建立しており、今年で16本目となりました。（参加者13名）

＜大畑川、野辺地川、蟹田川、田名部川、土淵川、天田内川、浅水川、鳴沢川、十川、松館川、熊ノ沢川、浅瀬石川、大童子川、川内川、浅虫川＞



標柱へ字を入れた小学生が
田子町のケーブルテレビよりインタビューを受けました

このときの標柱設置について、令和4年7月19日付のデーリー東北に記事が掲載されました。

あおもりの川を愛する会のホームページにも掲載しております。

●令和4年度「水辺で乾杯」水辺関心創造アクション あおもりの川を愛する会 事務局

全国一斉社会実験として水辺関心創造アクションが令和4年7月7日午後7時7分に行われました。各自ドリンクを準備して貰い、それぞれの場所(堤川、土淵川、旧十川、浅水川、十和田市官庁街通り)に集まって頂き川のほとりで乾杯致しました。

(参加者：堤川22名、土淵川12名、旧十川6名、浅水川14名、官庁街通り9名)



土淵川 参加者：12名



堤川 参加者：22名



浅水川 参加者：14名



旧十川 参加者：6名



十和田市官庁街通り
参加者：9名

●河川技術講演会（青森河川文化講演会）
あおもりの川を愛する会 事務局

令和4年8月4日五所川原夏祭り「立ちねぶた」の開幕日に、五所川原市佐々木市長挨拶を始めとしてオルテンシアで「河川技術講演会」が開催されました。

青森河川文化講演会は平成10年から開催され今回で23回目となります。

講演会の内容は「地域を“みず”から守る。東北流域治水」（講師青森河川国道事務所長山田拓也氏）と「津波に強い構造物の施工上の留意点」（講師八戸工業大学名誉教授佐々木幹夫氏）の講演が行われました。

最後は青森県副知事柏木司氏にご挨拶を頂きました。（参加者166名）



佐々木孝昌市長挨拶



講師 山田拓也氏



講師 佐々木幹夫氏



柏木司副知事挨拶



●（中止） 蔦川清掃活動 あおもりの川を愛する会 事務局

令和4年9月3日、第18回蔦川清掃活動を実施予定でしたが、新型コロナウイルス感染者の増大および8月豪雨被害等対応のため、中止となりました。

●駒込ダム本体建設工事見学会 あおもりの川を愛する会 事務局

令和4年9月29日、駒込ダム建設所のご協力を頂き「駒込ダム本体建設工事見学会」を行いました。（参加者12名）



●イワナの産卵床づくり

あおもりの川を愛する会 事務局

令和4年10月14日 蔦川の小溪流に今年16回目になります「イワナの人工産卵床」を2ヶ所設置しました。

(参加者15名)



●流域治水に繋がる洪水対策（霞堤等）の伝承 あおもりの川を愛する会 事務局

令和4年12月8日下北地域県民局合同庁舎に於いて、あおもりの川を愛する会八木澤幹事、下北地域県民局本間課長が講師となり報告及び意見交換会を開催しました。



下北地域整備部 村田部長挨拶



講師 本間課長



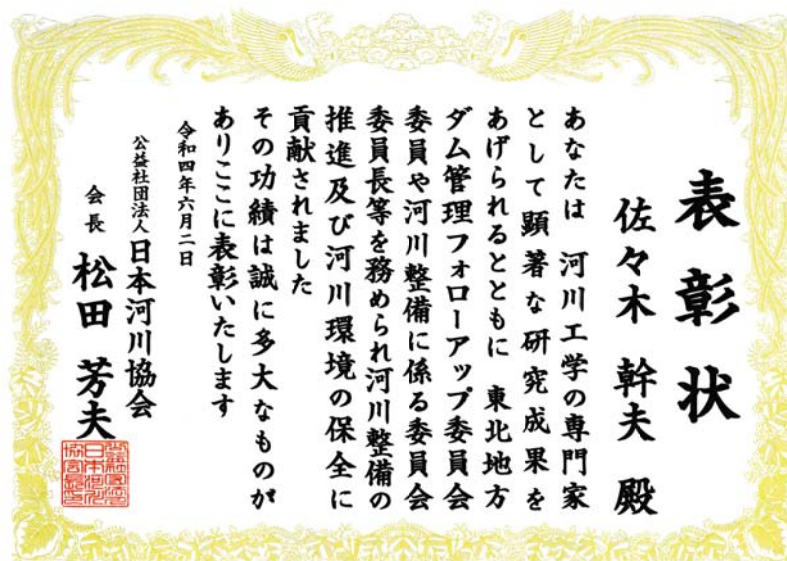
講師 八木澤幹事



●日本河川協会より佐々木会長が河川功労者として表彰されました
あおもりの川を愛する会 事務局

河川功労者表彰とは、河川分野における表彰制度として昭和24年（1949年）に始まり、治水・利水・環境の観点はもとより、歴史・文化、河川愛護、国際貢献、学術研究、地域振興等の観点から広く社会に対して功績のあった個人や団体を表彰するものです。

このたび、当会の佐々木幹夫会長が、『河川工学の専門家として顕著な研究成果をあげられるとともに、東北地方ダム管理 フォローアップ委員会委員、河川整備に係る委員会委員長等及び小川原湖水環境 技術検討委員会委員長等を務められ、河川整備・ダム整備の推進に貢献された』として表彰されましたのでお知らせいたします。



●令和5年度 あおもりの川を愛する会総会のご案内
あおもりの川を愛する会 事務局



令和5年度の総会を5月20日（土）に予定しております。

総会後には、講演会も開催する予定となっております。詳細については後日改めてご案内いたしますので、ご繁忙中恐縮に存じますが、万障お繰り合わせの上ご出席くださいますようご案内申し上げます。

●あおもりの川を愛する会 事務局より

あおもりの川を愛する会

「あおもりの川を愛する会」は26年目を迎えることになりました。会員数は現在190名となっています。

令和4年度は新型コロナウイルスの影響が多少あったものの、会員の皆様の協力のもとさまざまな活動を行なう事が出来ました。これからも会の活性化が図れるよう、頑張っていきたいと思ひます。ご協力よろしくお願ひいたします。

【事務局】 〒030-0111
青森県青森市荒川字柴田102番地1

TEL: 017-729-0922

FAX: 017-739-3561

E-mail: kon-h@nishidagumi.co.jp